

茨城県支部会報

URL : http://www.engineer.or.jp/c_shibu/ibaraki/
E-mail : ibaraki@engineer.or.jp

内容	・2014年度年次大会	1
	支部長挨拶、来賓挨拶	1
	2013年度活動報告、2014年度活動計画	2
	・講演会・交流会開催	3
	・平成25年度技術士合格者祝賀会・講演会、第12回技術士CPDミニ講座	4

2014年度年次大会

2014年6月7日(土)14時より、ひたちなか市ワークプラザ勝田において、茨城県支部の第3回年次大会が多数の来賓のご出席をいただき開催された。

支部長挨拶

茨城県支部 支部長 本田永信

本日はぐずついた天気の中、年次大会に出席いただきありがとうございます。また、ご来賓の方々には土曜日にもかかわらずご列席賜り誠にありがとうございます。

一昨年、茨城県支部がスタートして支部として何とか軌道にのってきたというところ。この一年、年次大会・講演会・交流会、新年講演会・交流会、一次・二次試験合格者祝賀会・講演会の開催、「茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏祭り2013」および「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」に出展、「堀口小学校ふれあい2013」への参画、産学官合同による研究成果発表会への出展など中小企業支援への関係機関との連携活動、CPDミニ講座開催、テーマ毎のCPD啓発講座で見学会の開催、JABEE関係者への説明、茨城県支部ホームページの拡充、支部会報の発行などを行いました。

三年目に入る今年度は一歩進んだ活動へと踏みだしたいと考えています。委員会の中に活動を中心にしたいくつかの小委員会を設けて活動のコアにしていきます。現在、県南地区活動の拠点としての小委員会の準備をしています。情報化ネット社会でいつでもどこでも手軽に情報が手に入り、簡単に連絡ができる環境にありますが、このような状況であればこそ直に顔を合わせ、言葉を交わすことの大切さを感じています。複数の人が集まり意見を交換する中で新しい知恵が湧き、新たな方向付けができてくるものと思います。小委員会はそのための場づくりであり、うまく役立つことを期待しています。是非、小委員会に参加、参画をお願いします。今後とも、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



来賓挨拶

公益財団法人茨城県中小企業振興公社 参与 奥川洋治氏

日頃、皆様には中小企業振興事業に大変お世話になっており、この席をお借り致しまして厚く御礼を申し上げます。

経済の状況は、マクロ的にはアベノミクスという非常に良い方向に行っていることは新聞等々でご承知のとおりでございます。しかし、中小企業を取り巻く環境は、格差に大きいものがあり、総じて成長が実感できないというのが現状だと思っています。しかしながら、2020年のオリンピック開催という明るい話題もあり、中小企業にとっても未来に向かって希望があるのではないかなと思っています。その一方では、少子高齢化とか、あるいは益々進むグローバル化の中で、中小企業が非常に厳しい環境に追いやられているというのも現状です。そうした厳しい中小企業においても、やはりこれから生き残るためには技術革新とか経営革新とか、いわゆるイノベーションを求められています。そういう意味では、本日お集まりの技術士の方々には、技術革新分野で今後益々果たす役割、あるいは推進する役割は大きくなっていくのではないかな、と思うところです。当公社におきましても、先生方には中小企業の現場に赴いて、それぞれの技術指導をして戴いたり、あるいは各種の委員会の中で助言を戴いたり、様々な分野でご活躍を戴いています。当公社の役割も益々これから大きくなります。連携を一層深め、県内の中小企業が発展できますように、互いに手を携えてご協力を戴ければありがたいと思っております。

最後になりましたが、本日の開催、誠にありがとうございます。



年次大会概要

年次大会では、本田支部長より平成 25 年度の事業報告及び平成 26 年度の事業計画が報告された。

1. 2013 年度事業報告

(1) 年次大会・役員会・委員会活動

- ・平成 25 年 7 月 28 日に茨城県支部会員 567 名のうち 59 名の出席を得て、年次大会を開催した。
- ・支部長を含め、16 名で構成される支部役員会を年 12 回開催した。
- ・支部役員会の開催に合わせて、総務、広報、研修、地域各委員会を開催した。
- ・各委員会が、研修会、見学会の開催、会報の発行、HP への掲載広報等の活動を行った。

(2) 行事

- ・全体会合 CPD として、平成 25 年 7 月 25 日年次大会での講演会・交流会、平成 26 年 1 月 18 日の新年講演会・交流会を開催した。
- ・平成 25 年 5 月 25 日に「技術士合格者祝賀会・講演会」を開催した。
- ・CPD ミニ講座「ザ・技術士」を 7 回、「国土強靱化」をテーマにした CPD 啓発講座としての見学会を 2 回実施した。

(3) その他

- ・地域社会貢献活動として下記へ参加し、日本技術士会の紹介や理科教育支援を実施した。
 - ①平成 25 年 8 月 24 日に、「茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏祭り 2013」に出展
 - ②平成 25 年 11 月 2 日～3 日に、「青少年のための科学の祭典 2013 ひたちなか大会」に出展
 - ③平成 25 年 11 月 2 日に、ひたちなか市立堀口小学校「ふれあい 2013」に参画
 - ④平成 25 年 11 月 15 日に、ひたちなか市教科担任制モデル校公開研究会において、理科アイテムデモンストレーションを実施
- ・技術士の活用促進活動の一環として、平成 26 年 2 月 13 日に、茨城県工業技術センター主催の「産学官合同成果発表会」へ参加し、技術士を紹介するパネル展示や資料配布を実施した。
- ・技術系人材育成活動として、茨城大学及び茨城工業高等専門学校に対し「技術士及び技術士制度」に関わる説明会を行った。
- ・情報発信活動として、支部会報を 2 回発行するとともに日本技術士会の WEB サイト支部ホームページに行事案内、活動状況報告を掲載するなど積極的活用を図った。

2. 2014 年度事業計画

茨城県支部がスタートして 3 年目にあたる今年度は、統括本部の事業計画書に沿って会員活動を一層活発化させていく。特に、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、国、県、各市町村、県内企業・団体及び県民に対する科学技術の向上と県民経済の発展に寄与するよう取り組んでいく。

主要な活動テーマは次の通りである。

(1) 技術士及び技術者の倫理の啓発

(2) CPD 実施機会の増加を目指した技術士の資質向上

- ・「年次大会での CPD 講演会」、「新年講演会」の開催
- ・「技術士 CPD ミニ講座」、「テーマ毎 CPD 啓発講座」の開催
- ・「技術士第一次及び第二次試験合格者祝賀会・講演会」の開催

(3) 技術士制度の普及・啓発

- ・県及び関係機関への技術士の活用及び技術士制度に関する提言や働きかけなど

(4) 業務開発及び活用促進

- ・県商工労働部産業技術課との意見交換会実施

特に県関係部門との連携を密にし、中小企業支援業務を強化する。その一環として、「戦略的基盤技術高度化支援事業」等の提案支援に取り組む。



盛況の年次大会

講演会 年次大会に引き続き、講演会が実施された。

◆ 講演1 「臨界現象と自然との関わり」

独立行政法人 日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所
技術士(原子力・放射線部門) 須藤俊幸氏

1999年のJCO臨界事故以来有名になった「臨界」であるが、その後も2007年には、複数の原子力発電所の原子炉で運転停止中の制御棒引き抜けによる臨界現象が過去に発生していたことが明らかになった。また2011年の福島原子力発電所の事故では特定放射性核種の検出による「再臨界」の疑念が話題になった。臨界現象について、パチンコ台を例にとって説明された。例えば、100個のパチンコ玉(中性子)を打ったとすると、出玉(生成中性子)が100個の時「臨界」という。原子炉のように生成する中性子を上手く制御して臨界状態を保つことにより多くのエネルギーを取り出すことができる。しかし、予期しない「臨界」及び「超臨界」になると臨界事故になる。

臨界事故が起きないようにするのが臨界安全管理である。臨界安全管理の基本は、核分裂性物質の容器を小さくする形状管理、核分裂性物質の濃度(質量)管理、中性子吸収材管理などがある。臨界安全管理技術は原子炉の研究の当初から確立されていたが、これまでも臨界事故が起っていた。「臨界」の瞬間の様子を写真やビデオなどで説明された。

私たちは、宇宙(大気)や大地、体内などの自然からの中性子を含む種々な種類の放射線によって1年に2.4mSv程度被ばくしている。また、地上よりも上空の方が宇宙線の寄与が大きくなる。原子炉は1942年フェルミによって最初に作られたが、アフリカのガボン共和国に20億年前に存在していたと思われる自然の原子炉の形跡が1972年に発見されたとのことである。

以上のように、種々の例示を用いての講演であり、興味をもって聞くことができた。



講演される須藤氏

◆ 講演2 「異分野こそアイデアの宝庫」～燕三条発“かわいい”に賭ける匠たち～

株式会社ダヴィンチ・ブレインズ 代表取締役
下川技術士事務所 所長 技術士(経営工学部門) 下川眞季氏

社会全体の意識が情報化を経て、知識社会(感性社会)に変化しているのに伴い、ものの豊かさより心の豊かさが重要視されるようになってきており、モノづくりの価値軸に「感性価値」という第4の価値軸を加えることが必要であり“かわいい”という感性価値が注目されている。

またニーズの多様化に伴い、ニッチな分野でユニークな中小企業を数多く育てることが重要であり、中小企業におけるイノベーションの両輪として重要なのは、「感性価値」と「技術力」である。このような考え方にに基づき、優れた金属加工技術を持つ燕三条の“かわいい”感性デザイン賞を受賞した中小企業メーカーの異分野に挑戦したモノづくりの取り組みを紹介された。受賞製品は、缶オープナー、小型工具箱及び爪切りニッパーである。異分野でのビジネス創出に重要なスキルは、「実行力」と「発見力」であり、「発見力」を高めるには「異分野ミミクリの法則」が有効である。すなわち、異分野はアイデアの宝庫であり、異分野の組み合わせ、異分野のビジネスモデル、異分野の常識・ルール、さらには異分野とのコラボレーション等に着眼してビジネス展開を図ることが成功に結び付いている。

最後にソフトウェアの次に来ると思われるフィールウェアの時代をにらんで「日本人の感性プラス匠の技能」に期待をかけた“未来への宣言”を披露していただき、異分野技術集団である技術士会に属する我々にとって示唆に富んだ内容であった。



講演される下川氏

交流会

年次大会・講演会に引き続き行きわたった交流会では、茨城県商工労働部技監兼産業技術課長の中嶋勝也氏から、ものづくり補助金、県工業技術センターなどの最近の状況のご紹介があった。ものづくり補助金には多くの応募があり、これが県内産業の提案能力のバロメータでもある。応募提案や中小企業支援には技術士会の活動が期待されているとの話があった。また、茨城県中小企業団体中央会専務理事の千葉実氏からも、県施策と連携した県内企業の中小企業ものづくり支援のご紹介があった。講演会講師への直接の質問や会員同士の情報交換などが行われ、最後に、幾多の困難を乗り越えられ、企業へ技術指導されている講演会講師の下川眞季氏のパワーをいただき、支部も活性化に努めていきたいとの岸副支部長からの挨拶で散会となった。



交流会であいさつされる中嶋氏

平成 25 年度技術士合格者祝賀会・講演会

平成 26 年 4 月 5 日(土)、ひたちなか商工会議所会館において、平成 25 年度技術士合格者祝賀会が 34 名の参加者(内、新合格者 8 名)を得て開催された。

冒頭、本田支部長により茨城県支部の活動紹介が行われ、「霞ヶ浦環境科学センター夏祭り」、「青少年のための科学の祭典」等の行事や、CPD 講座・見学会など県支部活動への参加協力を呼びかけた。

次に前小屋千秋氏による講演「地球温暖化問題の概要」が行われ、地球温暖化問題についての歴史や現況および将来について、詳しく、分かり易く解説された。

最後に、交流会が盛大に行われた。今年度の合格者の参加は昨年に比べ 2 倍で賑やかであった。一人ずつ、自己紹介とともに近況や専門領域の話、抱負などを話していただいた。ある水産部門の合格者からは、チョウザメ養殖とキャビア生産の話などを聞くこともでき、楽しい語らいの中、盛会裏に終了した。

今年度は合格者の参加が多く、活発に意見・情報交換が行われ、また県支部の紹介や PR も十分に行うことができた。



多数の参加者による合格祝賀会



講演される前小屋氏



新合格の方々(白バッジ着用)

第 12 回技術士 CPD ミニ講座

第 12 回技術士 CPD ミニ講座 (第 156 回、No165 ザ技術士) が参加者 26 名のもと、下記により開催された。

- ・日時：平成 26 年 5 月 10 日(土) 15:00 ~ 16:30
- ・場所：ひたちなか市文化会館 第 2 会議室
- ・講師：株式会社日立製作所 インフラシステム社 主管 日本技術士会登録 企業内技術士交流会 会長
技術士(電気電子/総合技術監理部門) 柴垣琢郎氏
- ・テーマ：「中東の新しい都市交通、ドバイモノレールシステム」
- ・内容：アラブ首長国連邦のドバイ沖合いに作られた人工島(パームジュメイラ島)への移動手段として建設された全長 5.4km のモノレールシステムである。厳しい競争の末、受注して完成するまでの 3 年間にわたる活動の紹介であった。現地の状況なども説明いただいた。



熱心に受講する出席者



講演される柴垣氏

編集後記

◆茨城県支部会報第 4 号では、2014 年度年次大会を中心に記載した。H25 年度の活動実績と H26 年度の活動計画が報告された。会員の CPD に資する活動、地域社会への貢献活動など、多岐にわたる活動がされている。

◆講演会は、我々技術士にとって、時宜を得た、示唆に富んだ内容のお話であった。紙面の都合で全てをお伝えできないのが残念である。(Hm)

広報委員会：松本 宏(委員長)、石田 正浩、野口 芳樹、荻原 覚、堂本 隆

・情報提供は、E-mail：matsumoto_pe@net1.jway.ne.jp(松本)まで